

地域再生を担う人づくり支援調査

(海士町人づくり協議会)

目標

1. 持続可能な産業と雇用の創出
2. 特産品などによる島統一のブランド

以上を研修会をとおして青写真を描き、物産展等へ出展
する中で、更に確認作業を取り組んだ。

現状の把握と整理

これまでの海士町の事業展開フロー



現場	課題
生産	(1)農業・漁業における 就業者の減少 や高齢化の進展により、生産構造が脆弱化している。 (2)その背景には、 後継者の深刻な不足 があり、その理由の一つには、「獲る」漁業においては資源変動や市場価格の変動を受けるために 漁業経営及び所得面で不安定 になることがあげられる。 (3)一方で、里海の生物多様化の保全といった 地球環境問題への対応 や持続可能な環境配慮型経営が求められる。
加工『商品開発』	(4)商品開発研修生制度は、産業施策に外部視点の導入がもたらされ、高付加価値商品づくりに大いに貢献した。しかし、独善に陥らず、島内のシーズとマッチングさせるためには、市場(顧客)に近いことは勿論、まず 「商品を知ること」 が何より大切
流通・販売	(5)自前の流通現場が「ない」ことが問題。すなわち、島でつくられた商品のほとんど全てが島外の大手流通・販売ルートを経由して顧客に提供されているのが現状であるが、直接的なチャンネルによって市場(顧客)と間近で対話することにより、多様化する顧客のニーズとウォンツを直接聞いて、まず 「顧客を知ること」 が何よりも大切。

車座研修会

これからの海士町の事業展開フロー

1

意識改革

一人ひとりが「やる気」を奮い起こす

2

ふるさと再発見

資源を活かした海士らしい魅力づくり
魅力の向上

3

交流

人と人、人とまちの出会いの機会創出

4

需要の発生

物の需要、サービスの需要
人材の需要

5

供給体制

循環産業化を可能にする体制の整備
多様な雇用の機会の創出

6

経済的豊かさ

産業振興による経済的な自立
均等ある産業構造づくり

環境的豊かさ

産業振興による経済的な自立
定住条件の向上

精神的豊かさ

産業振興による経済的な自立
誇り、自立心のある暮らし



海士デパートメントスクール

人材育成:SRB実践プロジェクト

島独自の流通・販売システム(旅市・行商)

地域の「合わせ技」:交流と需要喚起

海士デパートメントストア

生産から販売までのトータルシステム

地元とUターン生産者の「合わせ技」

(知恵と知識の交流・島内需要の発生)

商品開発:特産品でなく、商品へのこだわり

次からの展開

「島の幸福論」



実践活動など

- 食の感謝祭開催 -

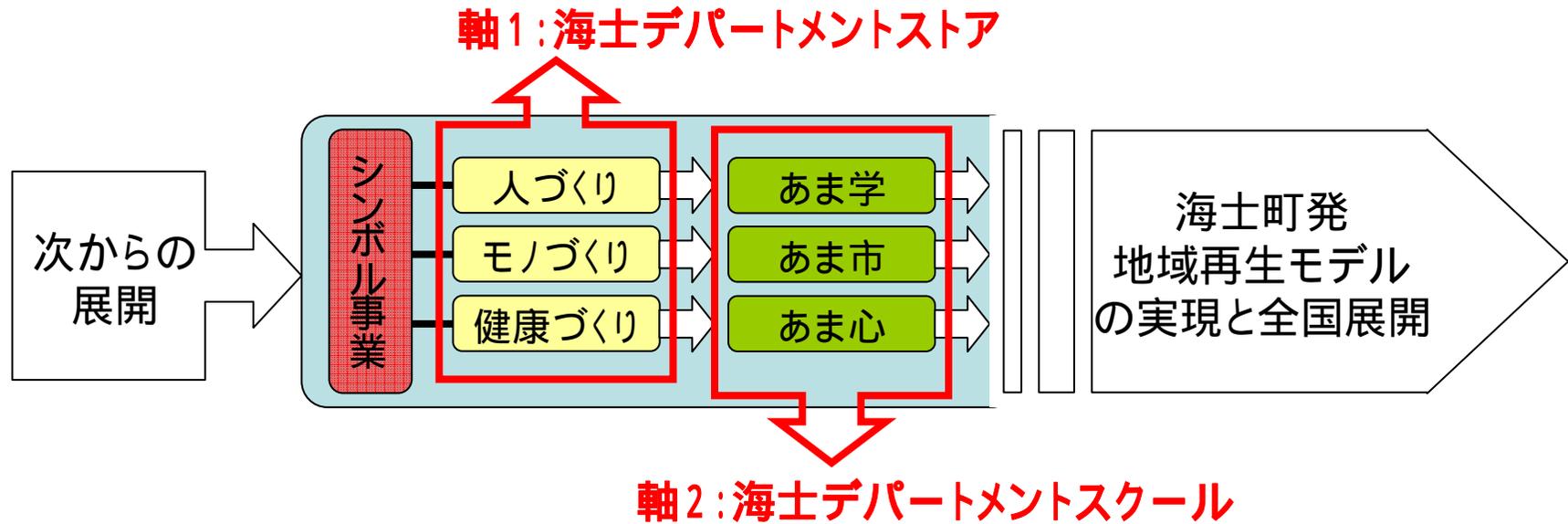


- 全国物産展での出展 -



地域再生の展望

地域再生へ向けた2軸展開



2軸による価値連鎖 (value chain)

